

学校だより

気持ちを込めて朗読会

今年の朗読会は6月7日(火)に行いました。保護者の皆様や「ゆきんこお話し」の人たちにも聞いていただき、練習のとき以上に本番がよかったと言われるほど、とても気持ちを込めた朗読ができました。

朗読会は、本校の特色ある教育活動のひとつであります。小学校1年生から6年生までを2つの縦割りのグループに分けます。作品選びは、児童みんなが意見を出し合



い、「ぶす(附子)」と「さんせーい」に決めました。約1ヶ月間の練習期間を取り、声の強弱、抑揚、スピードそして、間の取り方などを、子どもたちが中心となって、練習をくりかえしながら修正を加えて行きました。ひらがなを習い始めたばかりの1年生も、自分の持ち場を懸命に努めました。さすがに、高学年になると、今までの経験を十分に生かし、感情豊かに表現し、聞き手をお話の中に引き込む力を感じました。普段は、人前で話したりすることを苦手とする児童も、この日は堂々と自信たっぷりに台詞を読み上げ、会場から割れんばかりの拍手をいただきました。くりかえし練習をすることが児童の自信につながり、仲間と意見を交わしながらの稽古が、自分たちのオリジナルを作っている誇りになっているんだと思います。



予定変更！修学旅行

4月14日以降に熊本県と大分県で相次いで発生した地震の影響により、修学旅行先を九州方面から関東方面に変更することになりました。

鎌倉、横浜そして東京。鎌倉では写真の大仏の大きさに驚き、大仏さんの体内に入りました。中は暗くて暑かったようです。生徒3人、先生2人の修学旅行です。人数が少ない分、小回りが



利き余裕を持って見学ができました。横浜のランドタワー、国会議事堂、デイズニーランド、お台場など3日間でたくさん場所を訪れました。山間の学校から大都会東京への修学旅行は、生徒たちにとってカルチャーショックの連続だったかもしれません。大きな建造物、大勢の人の流れ、巨大なエンターテインメント…。中学時代の修学旅行の思い出は、この年になっても心

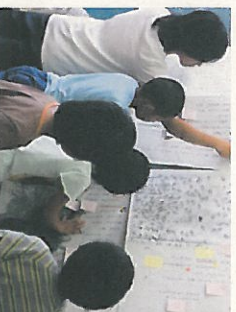
に残っています。きっと、生徒たちも家族旅行のような今回の修学旅行を深く胸に刻んでくれたと思います。

小中合同校内研究会

本校の校内研究会は小中学校合同で行っています。研究主題を「子どもたちが楽しく学び合うための小中学校の一貫的な教育のありかた」とし、3年間取り組んできました。同一敷地内にある小規模校の特色と強みを生かし、小中連携を深め、学力や人間性の向上を図っています。



す。また、子どもの主体的な学びを引き出すための効果的な指導法を日々探求しています。講師に「学びの共同体」スパーバイザーの倉知雪春先生を、年2回招聘し研究を深めています。写真は、先日6月14日に行いました小学2年生の国語科の研究授業の様子



です。少人数の集団の中でも、自分の考えを理由づけて書き出し、ペアでの意見交換や発表などとても集中して学習に取り組んでいます。世の中の変化に伴い、子どもたちにつけるべき力や授業スタイルも変わってきています。押し寄せるグローバル化や高度情報化社会の中で、子どもたちが生き抜いていくために欠かせなくなってくるのが、人とのコミュニケーション能力と状況を的確に判断し考える力だと私は思います。

県・市教育長の訪問

先月の5月27日(金)に、へき地学校教育長等特別訪問があり、県・市の教育長様、他4名の方にお越しいただきました。へき地学校の現状把握と教育振興が主な目的であります。当日は、学校説明をした後、小中学校のすべてのクラスの授業を参観いただき、続いて体育館で、小学生は朗読会の中間発表、中学生は「RTふれあいの輪」の取り組みや防災学習について発表しました。教育長からは、図書を贈呈いただき、また、講評として、「目を閉じて聞いていると情景が浮かぶくらい表現力が優れていた」「上級生が下級生を気遣って一緒に作り上げていた」「葛川・久多のそれぞれの地域への子どもたちの思いがよく伝わってきた」などのお褒めの言葉をいただきました。

